

## 植物と人々の博物館メールマガジン

第 78 号 2021 年 8 月 3 日発行



暑中お見舞い申し上げます。

武蔵野公園ではニイニイゼミとミンミンゼミセミが盛んに鳴いています。東京には 5 種のゼミがいますが、なぜかこのところアブラゼミが少ないようです。あまりに暑いので、ヒグラシとホウシゼミはまだです。中野の美容院の前の道端の割れ目に、遅しくもシクラメンの花が咲き始めました（写真）。元気をもらえます。

キッチンガーデンでは、オクラ、モロヘイヤ、万願寺トウガラシ、バジル、ツルムラサキなどが収穫でき、キビとハトムギは開花しています。

小菅に行き、雑穀見本園の草取りをしました。植物と人々の博物館の表札（美術科生作成）も行方不明でしたので、新しくつけました（写真）。素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、その中に真情を見いだしては称賛し、日々の暮らしの中で共感し、結び、希望を求めて励まし合いたいです。ぜひ一緒に、植物をめぐる生物文化多様性の保全のための調査研究や普及活動にご参加ください。

くれぐれも、お大事にお過ごしください。東京はオリンピック優先で何もかも対応が不十分になり、ウィルスも猛猖獗しています。

### 1. 植物と人々の博物館

1) 開館・作業予定日： 7 月 16 日に雑穀見本園の草取りと、植物と人々の博物館の表札を更新しました。COVID19 が小康状態になったら、8 月末に見本園草取り、網掛けや標本整理をする予定です。

2) 民族植物学ノオト： 第 15 号電子版は原稿募集中です。ぜひご寄稿ください。締め切りは 2021 年 12 月末、2022 年 3 月発行予定です。安孫子さんから降矢静夫書簡集、降矢俳句解説の 2 編をいただいています。編集子は 1968 年以来考えてきた「大学論」を準備しています。これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。

<http://www.ppmusee.org/goods.html>

3) 電子書籍：植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）に電子書籍（既刊）の項で読めます。『第四紀植物』「第 7 章インド起原雑穀」についてまとめています。年内に全章を書き終える予定です。一部公開中：『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』、『日本雑穀のむら』、“Essentials of Ethnobotany”の一部公開はまだ先になります。発行予定：『山村農人降矢静夫対談集』（降矢静夫・木俣美樹男）。これらは書き終えたら、電子出版にします。木俣美樹男 2021、クリンネス連載随筆継続 9 月号。11 月号。来年度は偶数月に継続します。

### 5) 寄贈など

「お米の勉強会会報」「クリンネス」「現代農業」「うかたま」「地域」ほか。

7) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation を作ります。

大口寄附ではなく、クラウド・ファンディングや助成・補助よりも、できるだけローテクで貯金箱に眠っている1円玉からする募金を以前から考えていました。植物と人々の博物館の維持のためにご協力ください。

## 2. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習理論・実践「環境学習原論」を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作りました。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学びあう市民連合大学をリンク・ページとして、インター・ネット上で運営することです。原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。ただ、学び合いたい人々が存在するだけです。学ぶ意味や大学について改めて考え直したいです。このサイバー大学は任意無償提供の学習素材、任意寄付で維持します。この提案にご賛同の方々の参加（リンクなど）を広く求めます。よろしくご連絡をお願いします。 <http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

### 第2回環境楽習会「環境学習原論」 一般公開無料 二次案内

<http://www.millettimplic.net/university/pel2an.pdf>

日時：9月5日（日）10：30～12：00

場所：小金井市環境楽習館およびZOOM

話題：心の機能の進化 {五感、第六感（直感・直観）、第七感（教養・良心）} と人新世、街づくりとエネルギー・食料の自給活動（30分）。座談会（60分）。

予習資料は上記サイトにあります。

環境楽習会「環境学習原論」第1回はユーチューブでも見ていただけます。

記録動画（47' 48"） <https://youtu.be/pqF-ZGVLV1s>

### 第1回自給農耕ゼミ（小金井） 二次案内

<http://www.millettimplic.net/university/farmingkoganei/farmkolan.pdf>

日時：9月18日（土）14：00～16：00

場所：カエルハウス（小金井）およびZOOM、会場はお茶代300円

話題：農耕と農業の始まりと農耕文化基本複合、市民農園と家庭菜園（30分）。座談会（90分）。予習資料は上記サイトにあります。

\* カエルハウスの主宰は片山薫さん（小金井市会議員）で、家庭菜園や市民農園などの学習会を一緒に始めます。これまでの自給農耕ゼミの参加者の方もZOOM参加していただけると嬉しいです。

## 3. 雑穀街道普及会：

自給農耕ゼミなどをZOOMで行い、栽培、加工、調理、販売など技術的な事も経験交流し、学びを拡げるために、再び、ゼミは一般公開したいです。

雑穀街道普及会の会員や賛同者になっていただければうれしいです。趣意書や会則など、「街道美味」は下記のホームページをご覧ください。会費は任意、会の規模が大

きくなり、事務経費が必要になるまでは求めません。少しずつ、会員になっていただくようお願いしています。

遠くアフリカなどから極東にまで伝播してきて、縄文後晩期以降、この島嶼に住む人々の命の糧であった雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培は今にもいよいよ絶滅しそうな状況にあります。生きた文化財は種継をしなければ、死んでしまい、もう生き返らせません。生物文化の伝統も継承されません。全国各地の伝統的雑穀栽培継承者が90歳を超えようとしています。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として継承すべきです。雑穀街道をFAO世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。広い心をもって、個人も地域社会も全国へ、さらに世界の起源の地にまで街道を繋げて行ってほしいです。2023年は国際雑穀年になります。どうぞご助力いただけますようお願いいたします。

\* 下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

なお、45年間、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第3章関東地方・第4章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果(1974~2017)をまとめてあります。現在は第5章中部・北陸地方を整理しています。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/milletsn/jnmpilvil.html>

#### 4. 自然文化誌研究会

主な活動予定：詳細は下記ウェブサイトにあります。

8月5~11日　　こすげ冒険学校、小菅村

9月25~26日　　INCHまつり、小菅村

#### 5. 小金井環境市民会議

毎月運営会が開かれています。新プロジェクトで、「市民と緑・農との共生」が始まります。

~~~~~

**植物と人々の博物館** (山梨県小菅村)：館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男(東京、運営委員)、西村俊(石川、担当理事)、藤盛礼恵(千葉、運営委員)、川上香(長野)、渡辺隆一(長野)ほか

公式HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

環境学習市民連合大学 <http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

**雑穀街道普及会** <http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

事務幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

**エコミュージアム日本村／ミュージアム研究会／トランジション小菅** (山梨県小菅村)：

代表 亀井雄次(山梨小菅村)

自然文化誌研究会：代表 中込卓男（東京）、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

~~~~~



順に、シクラメン、植物と人々の博物館、雑穀栽培見本園